

キウイフルーツと第4回 APWSS

2年に1回開催されるアジア・太平洋地域雑草学会会議(APWSS)に、日植調が多数の研究者を派遣するようになってから8回になる。国外農業を見るチャンスに恵まれない地方農試の研究者にとって、この派遣は誠に有益で、色々の面で役立っているのではないかと思う。

私自身のことであり、除草剤とは直接関係のないことで、日植調には誠に申し訳ないことではあるが、昭和48年3月、ニュージーランドで開催された第4回アジア・太平洋地域雑草学会会議に出席させてもらったが、会議期間中、1日会議をサボって、和歌山県果樹試験場の宇田場長の厚意で長野県果試の横田氏と共にティプケで90エーカーのキウイフルーツ栽培農家のピータソン氏と蜜柑精農家でキウイフルーツに切替中のマクロリン氏の果樹園や関係施設を見学し、色々と話を聞き、大変啓発されたものであった。帰国後、この果物の導入について、現地を見学したことが、百聞は一見にしかずの譬えの如く、種々の面で、試験研究の場合その他で、大変に役立ったと思う。

その後キウイフルーツは、55年度日園連の調査によると、西南暖地で栽培面積は393ヘクタール、生産量は398トンと伸び、56年度の栽培面積は700ヘクタール、生産量は1,000トンと推定されている。また昨年には、栽培者や試験研究者等で視察団を編成して、ニュージーランドへ渡ったとのことである。さぞかし真似の早い日本人に、のんびりしたニュージーランド人もびっくりしていることだろうと思う。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 近畿中国四国支部長 末沢一男〕

目次 (第15巻第8号)

世界の畑作雑草と除草体系

- (1) 世界の食糧事情と雑草問題……………2
＜宇都宮大学 竹松哲夫・竹内安智＞

生わら施用と除草剤……………12

＜農事試験場作物部 宮原益次＞

は じ め に……………12

- I. 強還元田における除草剤安全
使用に関する試験の結果……………13

- II. 生わら施用田における除草剤
の安全使用について……………18

む す び……………20

昭和55年度冬作(麦類・いぐさ・水

稲刈跡)関係除草剤・生育調節剤試

験成績概要……………21

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

外国文献抄録

植物内の農薬の運命……………28

新除草・調節剤

・ビフェノックス除草剤……………31

・シメトリン・MCPB・SAP

除草剤……………31

表紙の写真は、カタバミの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、
亀甲突起型、4000倍。

〔写真提供者; 笠原安夫氏〕